

第2弾講演会で柏崎市西岩野遺跡の重要性を再確認！

弥生の大型掘立柱建物と神社建築の接点とは!?

木村英祐

1月28日（日）午後、新潟大学医学部第5講義室を会場に遺跡講演会「卑弥呼の時代の巫女がいた!? その2 西岩野遺跡にミシネノミクラ（御稲御倉）のルーツを探る！」を開催しました。昨年11月23日に柏崎市産業文化会館で開催した柏崎市西岩野遺跡についての講演会に続く第2弾です。「柏崎市の講演会には行くことができず、残念だった。」という多くの声に応える形で、今回は新潟市内での開催となりました。



白山神社の御稲御倉の前にて

白山神社の「御稲御倉」の見学

講演会に先立つ午前中には新潟市白山神社の「御稲御倉」、そして、新潟大学旭町学術資料展示館（あさひまち展示館）を見学しました。多くの雪が積もる白山神社の拝殿前には、寒い中続々と参加者が集まり、約30名を数えました。一行は、橋本博文本会会長（新潟大学人文学部教授）の説明のもと、拝殿向かって右手にある「御稲御倉」を見学しました。これは昭和28年に伊勢神宮に建立されたものを昭和49年に下賜されたものです。伊勢神宮独特の唯一神明造で造られており、1.8m間隔の4本の柱が2列に並ぶいわゆる高床式の倉庫ですが、建物の外側に棟木を支える独立棟持ち柱を持ちます。そうした独特な神社建築の様式を確認しながら、橋本会長から、独立棟持ち柱が若干内径している点、屋根に載せられた鰹木が古墳時代以来、有力な人物の居宅に用いられ、現在も伊勢神宮などに残されている神社建築につながっている点などが説明されました。その後、旭町学術資料展示館では、西岩野遺跡の発掘調査成果を示す写真パネルや新潟大学所蔵の弥生時代の遺物などを見学しました。



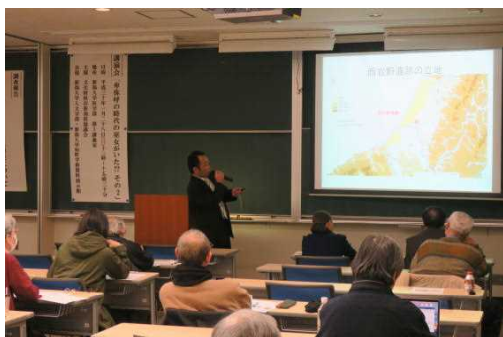
橋本会長による説明



写真パネルで遺跡の調査成果を確認

新たな発見と理解を深めた午後の講演会

午後は、新潟大学医学部に会場を移して遺跡講演会です。まず最初に中島義人さん（柏崎市教育委員会）による発掘調査報告です。中島さんは整理途中の遺跡調査の成果について、特に、独立棟



新たな写真や地図を加えた中島さんの説明



約50名の熱心な参加者

持ち柱付きの大型掘立柱建物と、たくさんの玉類が見つかった方形周溝墓の発掘状況を中心に説明しました。今回は新潟市での報告ということで、遺跡周辺の地形や関連遺跡の状況などを詳しく話し、さらに、整理段階で判明した新たな成果を明らかにしました。まずひとつは、大型掘立柱建物に関して、現地説明会時には東側でしか見つかっていなかった独立棟持ち柱と考えられる柱跡が、対面する西側でも見つかったことが明言されました。これで、この建物が独立棟持ち柱を持つものである可能性がより高まったこととなります。さらに、この柱穴から掘り出された炭化物についての年代測定結果も公表され、炭素C14年代法で「西暦139～216年」という年代が与えられるということが初めて報告されました。方形の掘り方を持ち直径40cmにもなる立派な柱を持つこの建物が、弥生時代後期のものであることが証明されたこととなります。また、方形周溝墓から検出された副葬品は、これまで勾玉3個、管玉9個、ガラス玉12個とされてきましたが、ガラス玉

は1点増えて13点となったとのことです。前回の講演会では無かった周辺遺跡の過去の調査成果を示す写真の数々から、当地における弥生時代の環濠集落の姿も明らかにされ、これまであまり注目されなかった柏崎市の豊かな弥生時代の姿を再認識させられました。会場からは、「大型建物はどうして環濠の外側に位置しているのか？」という質問が出されました。これこそがこの遺跡の謎であり、弥生時代の集落構造を考える重要な視点です。これを解明するためにも、広い範囲の調査によって遺跡の全体像を明らかにする必要があると感じました。

続けて橋本会長による「西岩野遺跡にミシネノミクラ（御稻御倉）のルーツを探る！」と題する講演です。西岩野遺跡は周辺からの比高が約25mほどと低いものの、平地のものとは違うという意味で「高地性環濠集落」と言って良いとし、あらためてこの遺跡の重要性を述べました。それは、本遺跡が弥生時代後期の拠点集落であり、周辺遺跡と比べても立地上重要な位置を占める、物流の拠点にもなり得る遺跡であること。本遺跡で発見された大型独立棟持ち柱付き建物は、西日本の同じ建物の弥生時代における最北端の資料となること。そして、銅鐸絵画や弥生時代土器絵画に見られる倉庫兼祭殿のような性格が想定され、「御稻御倉」が本来「稲倉」として新たな命を生む「再生」をあらわす呪術的な意味を持つこと。一般的な弥生時代集落は環濠の中に居住域があり外側に墓域を持つことが典型的で、西岩野遺跡も同じ集落構造を持つと考えられるが、大型建物が墓域側にある可能性が高いことが問題になる、などでした。

その後、特に、今回は大型掘立柱建物のルーツについて詳しく語りました。午前中に見学した白山神社の「御稻御倉」の柱間が1.8mであるのに対して、西岩野遺跡のそれが3mの長さになること、柱の太さも前者が約30cmで後者が約40cmと差があることから、その大きさが想像できるとしました。伊勢神宮内宮の正殿に見られる唯一神明造の建物構造を説明し、同様な構造を持つ建物が西岩野遺跡から見つかったことが重要と語ります。さらに、琵琶湖畔などの弥生時代遺跡から見ついている同様の建物の発掘調査例を挙げ、独立棟持ち柱がほかの側柱よりも細くて内径しており、柱穴も浅い傾向があるなどの特徴を有していることを説明しました。この他にも、全国の弥生・古墳時代

の遺跡の豊富な事例を紹介しながら、独立棟持ち柱付き建物の系譜が弥生時代から古墳時代を通してみられ、古墳時代中期から妻の中央に柱を持つ建物に変質し、現在みられる「御稲御倉」と同じ構造になっていくことが想像されると述べました。弥生時代の環濠集落なり古墳時代の豪族居館なりの集落構造の中で、独立棟持ち柱建物がどういう意味を持つてくるかが課題であり、倉庫兼祭殿だけでなく、祖先をまつる建物である可能性もあると述べ、今後の研究課題であるとししました。

最後に、方形周溝墓の被葬者について、鉄製武器を持つものは男性で、持たないものは女性である可能性があるとししました。さらに、古墳時代の人物埴輪の出土例から、複数の勾玉を持つ首飾りをつけた人物が女性であり、特に多くの勾玉をつける人物が巫女と考えられることを示し、西岩野遺跡の方形周溝墓の被葬者が巫女である可能性を述べました。

講演会の最後に、川上真紀子本会副会長から柏崎市長との面談の様子が報告され、今後の運動の方向性について、とにかく署名を集めることが重要と訴えました。例年に比べてとっても寒い冬の日でしたが、参加者の遺跡に対する関心の高さがうかがえる有意義な会となりました。

----- 【参加者の感想】 -----

- これから様々なことがわかってくるともっともっとおもしろくなりそうな西岩野遺跡に注目です。有意義な時間でした。ありがとうございます。
- 日本の古代史の中での激動の時代の始まりの躍動感のある遺跡の発見にとっても感動を覚えます。古代史ファンとしてもこれからもたくさん学んで良く知りたいと思っています。
- 今の段階で判明している西岩野遺跡の発掘調査の結果だけでも驚くべきものだが、この調査結果が氷山の一角という可能性もある。この遺跡の存続を確実なものとするために、可能な限り周囲の調査も行ってもらい、西岩野遺跡の価値をさらに高めるような発掘成果が出てきてほしいと思う。また、市民や行政もこの遺跡をこれからどうするか、現段階の調査成果だけでなく、遺跡の全体像がある程度判明してから判断しなければ、取りかえしのつかないことになると思うので、遺跡周辺の調査も併せて求めていくことも必要なのではないだろうか。
- 西岩野遺跡の調査報告を聞き、貴重な遺跡だということがよくわかりました。橋本先生のお話もとても興味深かったです。新潟の古代史でも新たな展開がありそうで楽しみです。
- まだ現地に行っていないので、先ず見てきたいと思います。もう現地に入ることはできないので、そばの道路まで行って環境を見てきます。
- 棟持ち柱の話、今回重点的に聞いて楽しかった。
- 御稲御倉の見学から続いている講演会、大変面白かったです。橋本先生のお話は、西岩野遺跡の背後に連なる沢山の歴史を教えていただけましたが、いかんせん時間が足りませんでした。パート3・パート4と、更なる講演会を期待しております。
- 新潟県内でも、この遺跡の件を知らない人が多い。もっとピーアールして、遺跡の重要性をしらして、保存して行ってください。

面談の様子を地元「新潟日報」も紹介！

柏崎市長に西岩野遺跡の保存と活用を直接訴える！

去る1月18日（木）、文新協では柏崎市の桜井雅浩市長との面談を持ちました。これまで本会は、昨年11月8日に柏崎市長などにあてた緊急要望書を提出していますが、保存を求める生の声を市長に届けようと、この機会を設けました。本会からは、橋本博文会長、川上真紀子副会長のほか、柏

崎市民を含む全4名が柏崎市役所を訪ね、市長、教育長、教育部長、博物館館長とお目にかかることができました。はじめに、橋本会長より資料を使いながら西岩野遺跡の重要性を説明し、遺跡を破壊せず保存して欲

著作権保護のため

WEB版では表示できません

しいと要望。本会の上部団体である文化財保存全国協議会からの要望書を市長に手渡しました。また、本遺跡が県や国の史跡となる可能性も示唆し、保存の例として妙高市斐太遺跡や新潟市秋葉区古津八幡山遺跡をあげ、ぜひ地元で盛り上げて欲しいと訴えました。

これに対して市長は「学術レベルの高い遺跡であると認識」とその重要性は認めつつも、「道路工事も重要性があり、遺跡を優先するのも難しい」と苦しい胸の内を明かしました。しかし、「ことを乱暴に進めるつもりはない」とも述べ、「市として活動の盛り上がりには協力する」と本会の活動に理解を示しました。

市長としては、やはり遺跡を保存するための財源が気になる様子で、そのためには世論の理解が必要という立場を明らかにしました。

「4月から再調査をする方針。その結果で再度判断する。」とも述べており、すぐに遺跡破壊に向かうわけではありませんが、この遺跡の重要性をみんなで確認しながら保存・活用していこうという世論

を目に見える形にする必要があります。文新協では「柏崎市西岩野遺跡の保存に関する要望書」と題する署名運動に取り組んでいます。みなさんの更なるご協力をお願いいたします。(事務局)

2018年1月19日 新潟日報
(新潟日報提供)

編集後記

現在、文新協では柏崎市西岩野遺跡の保存運動に全力で取り組んでいます。たくさんの方々から署名が郵送されてきていますが、そのひとつひとつにお返事をする事ができず申し訳ありません。この場を借りてお礼申し上げます。しかし、まだまだ息の長い運動になりそうです。保存を求める声を大きな形としてあらわすための署名運動に、ぜひともご協力をお願いします。

この『会報』は文全協会員でなくても、文新協行事に参加された方には可能な限りお送りしています(ご参加なき場合は郵送を取りやめる場合があります)。名簿は本会からの連絡にのみ使用し、個人情報保護に留意し厳正に管理しています。会報送付がご迷惑な方は事務局までご一報下さい。

文化財保存新潟県協議会事務局 (入会についてのお問い合わせも)

電話 : 090-2735-5536

E-mail : bun-sin-kyou@js8.so-net.ne.jp

ホームページ : <http://www014.upp.so-net.ne.jp/bunsin-k/>

文全協のホームページ
もぜひご覧ください。